

## 42. 不登校児童生徒の体験活動や児童養護施設の子ども達の学習活動の支援

グループ名 虹の架け橋「通潤会」

代表者 岩永純二

### 1 活動の目的

私達は、退職した教員のグループです。日頃、児童生徒の登下校時の挨拶や声かけ、学校での草取りや花植えの手伝い等を行っています。私達にできる社会貢献として次のことを行います。

- ①学校と連携しながら、不登校傾向にある児童生徒が、家から外に出るきっかけとなるような活動を計画し、実行します。実際に体験活動をしたり、自分達の食事を作ったりすることで、自立を目指します。(不登校支援)
- ②児童養護施設の子ども達との交流を通して、学力向上に努めます。施設を定期的に訪問し、宿題をみたり、分からないところを教えたりします。(学習支援)

### 2 活動概要

#### 【不登校支援】

不登校児童生徒は、各学校の熱心な取組にもかかわらず、毎年同じような割合を保っているのが現状です。中には昼夜逆転をおこし、家から一步も出れない子どももいます。

少しでもそんな子ども達の支援をしたいと思っています。SSW(スクールソーシャルワーカー)やSC(スクールカウンセラー)、養護教諭にご協力いただき、体験活動への参加を呼びかけました。日程としては、10時30分に会場に集合し、簡単な自己紹介をした後、体験活動の班分けを行い、11時から火起こし体験、飯ごう炊飯、カレー作り、ピザ作り、焼き芋、バーベキュー等を行いました。準備が出来た12時頃、お互いに作った物を持ち寄り、食卓を共にしました。自分達の働きで出来たものの味は格別らしく、みんな美味しそうに食べていました。同じ釜の飯を食べるという意識もあってか、初めて会った者同士でも笑顔も見られ、会話を交わす子どももいました。

この体験活動には、保護者も参加することをお願いしました。そして、活動に口ははさんでも手は出さないこと、手伝いをしたいという気持ちは分かるものの、ぐっと我慢すること等を初めに約束しました。そのことが子どもの自立につながることをわかってもらいたかったためです。保護者にはテーブルの周りに椅子を並べ、テーブルの上には飲み物とお菓子を置いておきました。初対面の人が多かったけれども、次第にうち解け、お互いに現状や悩みを話し合う光景が見られました。初めは表情がかたかったけれども、笑顔も見られるようになってきました。同じ環境、同じ境遇にある者同士だからこそ分かり合える

ものがあつたように思います。活動終了の時間になつても別れがたく、励まし合う姿がありました。「本日は保護者同伴とさせていただきます。時間を制約して申し訳ありませんでした。」と言つたところ、「今日ほど子どもから離れられたことはありませんでした。自由な時間を過ごせてかえつて有り難かつたです。」という言葉が返つて来たのには、意外というか、予期せぬことでもあり驚きました。不登校の根の深さを改めて痛感しました。

終了後、解散する時になると、子ども達はお互いの連絡先を交換していました。あとで分かつたことですが、お互いに連絡を取り合つている子どももいることを知りました。皆さんが感謝の言葉を述べながら帰つて行かれましたが、一番印象に残つたことは、お母さん達の笑顔が見られたことです。やはり「母親は家庭の太陽である。」と言われますが、まさにその通りであると思ひました。

毎回の体験活動が終わるたびに、何となく心が満たされる充足感を感じます。1回の体験活動に要する準備、参加の呼びかけ、運営、片づけ等の労力は非常に大きいものがありますが、毎回やつてよかつたという気持ちになります。終了後に、運営スタッフで行う反省会では、良かつた所を述べ合い、お互いに労をねぎらうことで、次回のアイデアが湧いてくるし、意欲も出てきます。時には、不登校だつた子どもが改善しつつあるというような報告もあり、皆で喜びを共にしています。

学期に1回のペースで、毎回約25名ほどの参加があり、体験活動を続けてきましたが、今後も、子ども達の不登校解消に向けて、スタッフで努力していきたいと思ひています。

### 【学習支援】

児童養護施設では、多くの子ども達が、施設の職員の皆様の深い愛情に包まれて、すくすくと成長しています。私達にも何らかのお手伝いが出来ないかということで、園を訪問し、子ども達の様子を見学しました。初回は、子ども達とのコミュニケーションを図ることが大切だろうということで、「ものづくり」から始めました。ものづくりの達人である先生に「風車」の製作をお願いしました。子ども達の方がかえつて上手に作る事ができました。他にも「ストローとんぼ」や「ブーメラン」を作りました。出来上がると、子ども達は早速園庭に出て、駆け回り歓声をあげていました。次回からは本来の目的である学習支援に取り組みました。手作りの計算ドリルや漢字ドリルを使つて行いました。子ども達は学年が違つたり、個人差があつたりしましたが、個に応じた指導を心がけました。また、宿題の分からないところをきいてくる子どももいました。時折、子ども達から「分かつた」とか「出来た」という声が聞かれました。勉強の合間には、塗り絵、折り紙、笛や鈴の合奏等もしました。大体月1回のペースで、8回程訪問しました。もの作りの時には関心も高く、30名程の参加がありましたが、学習になると参加者も減少傾向にありました。しかし、回を重ねるにつれて、参加する子ども達も増えてきました。顔見知りの子どものも増え、私達の訪問を心待ちにしている子どももいました。これからも機会を見だし訪問することで、子ども達の成長を見守つていきたいと思ひています。

### 3 決算報告書

収入	大同生命厚生事業団助成金	100,000円
支出		
	【不登校支援】	
	体験活動用具代	12,547円
	材料代	17,916円
	食材費	35,783円
	ガソリン代	4,000円
	小計	70,246円
	【学習支援】	
	教材作成費	5,000円
	教材印刷代	3,000円
	教具代	9,398円
	用紙代	1,638円
	交通費	28,000円
	小計	47,036円
	合計	117,282円

※ 今回、不登校支援と児童養護施設での学習支援を行いました。教職を退職した私達が久しぶりに児童生徒と向き合うことができました。子ども達から「出来た！」「楽しかった！」という言葉と笑顔にふれた時には、やってよかったという思いがこみあげてきました。子ども達との交流を通して私達が元気づけられたように思っています。このような機会を与えていただきました大同生命厚生事業団の皆様に対して、心より感謝申し上げます。有り難うございました。

4月14日と16日に震度7の大地震が熊本を襲いました。震源地の益城町にあった活動拠点は全壊し、メンバーの多くが被災しました。被害は想像以上に大きく、深刻なものでした。避難所生活や車中泊を強いられる日々でした。しかし、メンバー全員が無事であったことが何よりでした。今後、回復にはかなりの時間がかかると思われませんが、きっと復興し、これからの熊本を担っていく子ども達の笑顔に、もう一度会えることを願いながら頑張っていきたいと思っています。

#### 4 活動の様子



ジャガイモ植え



収穫されたジャガイモ



オリジナルのピザ作り



バーベキューの様子



もの作り（風車）



学習風景